

AVN-RB7

取付説明書

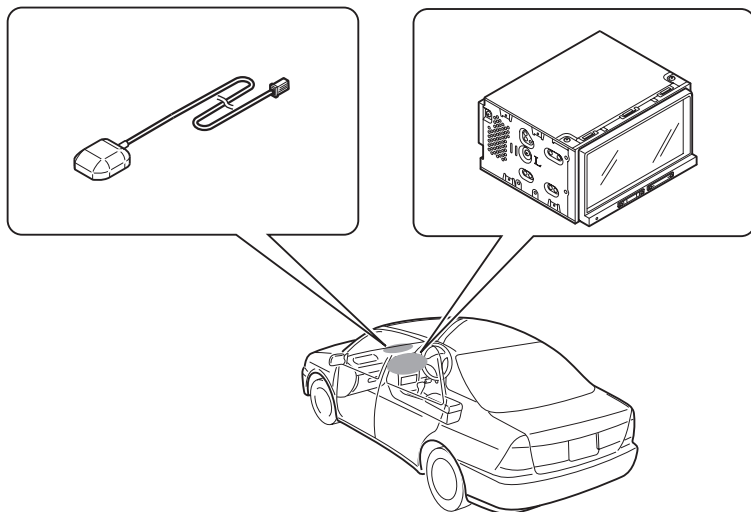
お客様へのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 安全運転のため、ご使用前に「取扱説明書」、「取付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」、「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

一販売店様へ

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡してください。

取付概要図



構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

① メインユニット ×1	② 接続コード (16P) ×1	③ 接続コード (12P) ×1
④ 六角ボルト (M5×8) ×8	⑤ 皿ねじ (M5×8) ×8	⑥ ハーネス固定テープ ×1
⑦ ショートコネクタ ×6	⑧ 地図SDカード※ ×1	⑨ GPSアンテナ ×1
⑩ アースプレート ×1	⑪ マイク ×1	⑫ クランパー ×5

通信ユニット (別売)

⑬ 通信ユニット ×1	⑭ 通信ユニット接続コード ×1	⑮ 両面テープ ×1
----------------	---------------------	---------------

その他の構成部品(取扱説明書、取付説明書、保証書などの資料類)

※ 地図SDカードは、メインユニットにあらかじめ挿入されています。

作業の進め方

- 1) 構成部品の確認
- 2) バッテリーの⊖端子を外す
- 3) 接続を確認する
- 4) GPS アンテナを取り付ける
- 5) GPS アンテナコードを配線する
- 6) 通信ユニットを取り付ける
- 7) マイクを取り付ける
- 8) メインユニットを取り付ける
- 9) バッテリーの⊖端子を元に戻す
- 10) 設定および動作確認をする

(☞構成部品)

(☞接続のしかた)

(☞システム接続例)

(☞GPS アンテナ取り付け上のご注意)

(☞通信ユニット (別売) の取り付け (例))

(☞マイクの取り付け (例))

(☞メインユニットの取り付け)

(☞取り付け後の設定 / 動作確認)

安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

❗：しなければならないことを表しています。

⊘：してはいけないことを表しています。

⚠：注意をしなければならないことを表しています。

● 本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

アドバイス

この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

警告

- ❗ 本機は DC12V ⊖アース車専用です。
大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの 24V 車での使用はしないでください。火災の原因となります。
- ❗ 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしてください。
プラス⊕とマイナス⊖経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
- ⊘ 本機を次のような場所には取り付けしないでください。
本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故や怪我の原因となります。

⚠ 車体に穴をあけて取り付ける場合は、注意して作業を行ってください。

車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。火災の原因となります。

❗ ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。
破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。

⊘ 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。
保安部品を使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。

⊘ 本機を分解したり、改造しないでください。
事故、火災、感電の原因となります。

❗ ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用してください。
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。

⊘ 画面が出ない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。

❗ 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いが出るなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

⊘ エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしないでください。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。

⊘ 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止めてください。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。

❗ 接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。
ショートにより火災、感電の原因となります。

❗ コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておいてください。
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつく事故の原因となり危険です。

警告

- ❗ 必ず付属の部品を指定通り使用してください。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れることが危険です。
- ⚠ 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- ❗ 取付説明書で指定された通りに接続してください。
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

注意

- ❗ 本機の取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車両に重大な支障をきたす場合があります。
- ⊘ 雨が吹き込むところなどの水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避けてください。
本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- ⊘ しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避けてください。
本機が外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
- ⊘ 直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けしないでください。
金属部分が高温になり、火傷をする可能性があります。また、本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。
- ⊘ 本機の通風孔や放熱板、ファンをふさがないでください。
通風孔や放熱板、ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ❗ コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。
- ❗ コードの配線は、高温部を避けて行ってください。
コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。
- ⊘ コード類を決して途中で切断しないでください。
コード類には、ヒューズなどが付いている場合があるので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。
- ⊘ 電源用リード線をバッテリーに直接接続しないでください。
機器を動作させるための電流容量が不足して、バッテリーから直接、電源を取る必要がある場合はバッテリー専用の配線キットを使用してください。
- ⚠ コード等の車内への引き込みは、十分注意してください。
雨、水の車内への浸入を防ぐためコード等の車内への引き込みには十分気をつけて作業を行ってください。車内に浸水すると、火災や感電の原因となることがあります。
- ⊘ 本機を車載用として以外は使用しないでください。
感電や怪我の原因となることがあります。
- ❗ 本機の取付場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。
取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

GPSアンテナの取り付け上のご注意

注意

- GPS アンテナは車室内専用です。法規制に抵触するため車室外への取り付けはしないでください。
- アンテナを取り外す場合、アンテナ本体を持って取り外してください。コードを持って引っ張ると断線等により故障の原因となることがあります。
- GPS アンテナに付いている磁石は大変強力です。アンテナを取り付けるときは以下の点に注意してください。
 - ・時計や磁気カード等に近付けないでください。時計や磁気カードが故障したり使用できなくなる恐れがあります。

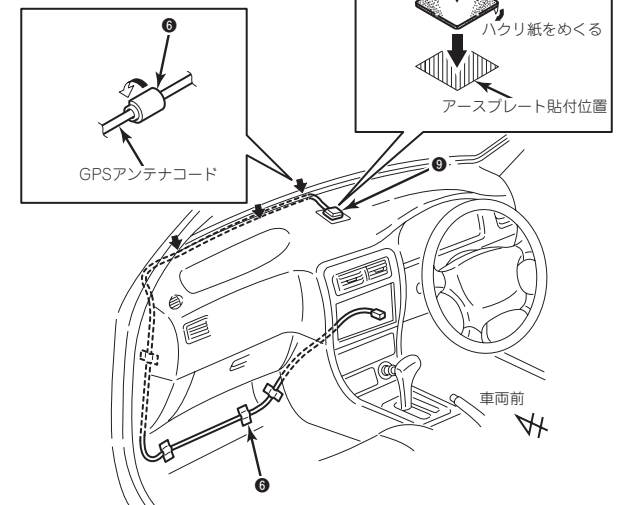
アドバイス

- 取付位置表面の汚れ、水分、油分などをよく拭きとってから取り付けてください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの受信感度が落ちる場合があります。
- ラジオ放送の音声や映像に妨害を与えることがありますので、GPS アンテナコードは、ラジオアンテナやラジオアンテナコードからできるだけ離して取り付けてください。

- ① GPSアンテナがしっかりと固定できる場所を選び、取付位置を決める。
- ② アースプレートのハクリ紙をはがし、インパネに貼り付ける。
- ③ アースプレートの上にGPSアンテナを取り付ける。
- ④ GPSアンテナコードをハーネス固定テープで固定しながらメインユニット取付位置まで配線する。

アドバイス

- 異音防止の為、GPS アンテナコードにハーネス固定テープを巻き付けてください。
- ハーネス固定テープの巻きは、インパネの隙間に入る程度にしてください。



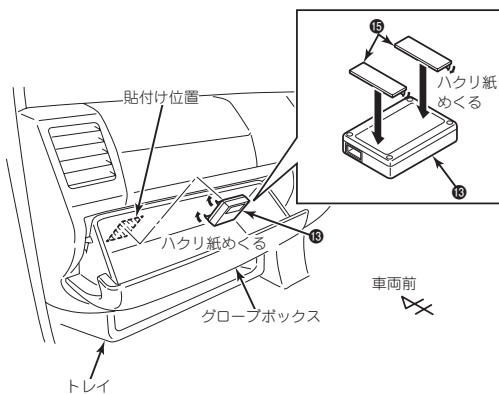
● 通信ユニット(別売) 使用上のご注意

⚠ 注意

- 通信ユニットは、カーナビ用途の製品のため、医療機器、防災／防犯機器、ガス・危険物等の安全装置、航空機器、輸送機器（自動車（カーナビ用途を除く）、列車、船舶、エレベータなど）などとの接続やパソコンに接続して使用する等、カーナビ用途以外で使用しないでください。
- 携帯電話などの通信機器使用を禁止されている場所では使用しないでください。電波障害により、電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあり、事故の原因となります。
（影響を与える恐れのある機器の例：心臓ペースメーカ・補聴器、その他の医療機器・火災報知器・自動ドアなど）
- 通信ユニットは、日本国内仕様であり、海外では使用できません。
- 通信ユニットを直射日光の強いところや炎天下の車内など、高い温度になるところで放置しないでください。故障や発熱・破裂・発火の原因となります。
- 通信ユニットは、環境や使用状況によって表面温度が上昇する場合があります。怪我や事故の原因となることがありますので、ご注意ください。
- 通信ユニットを次のような場所で使用しないでください。故障の原因となります。
 - ・ゴミや埃の多い場所
 - ・濡れたり、湿気の多い場所や結露しやすい場所
 - ・静電気の影響の強い場所
- 通電状態で通信ユニットの取り外しは行わないでください。故障の原因となります。
- 確実に通信ユニットがメインユニットに接続された状態でご使用ください。動作不良、故障の原因となります。
- 通信ユニットに落下などの強い衝撃を与えたり、通信ユニットを曲げるなど、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。また破損した破片により怪我をする恐れがあります。
- 通信ユニットを火中への投入はおやめください。発熱・破裂・発火の原因となります。
- 万一、通信ユニットから異常な発熱や発煙・異臭等が生じた場合は、ただちに使用を中止してください。
- 通信ユニットを電氣的、機械的特性を変更して使用すること（分解・改造・修理等）は行わないでください。改造は電波法違反になります。
- 通信ユニットの近くに金属や磁石などを置かないでください。正常な動作が妨げられるなど、無線性能の劣化の原因となります。
- 通信ユニットに貼ってあるラベルは、法的認証を証明するものですので、ラベルは剥がさないでください。また汚したり、消したりしないでください。
- 地震・雷・風水害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意、または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 通信ユニットの使用、または使用不能から生ずる付随的な損害（記録内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 指定以外の接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 接続端子に手や指、異物等を入れないでください。怪我や感電、火災、故障の原因となります。

● 通信ユニット(別売)の取り付け(例)

1 通信ユニットを取り付ける（例：グローブボックス）



- ① グローブボックス、トレイなどの車両部品に通信ユニットの取り付け位置を決める。

📄 アドバイス

- 通信ユニットをダッシュボードなど直射日光の強いところや、高い温度になるところに取り付けしないでください。故障や発熱・破裂・発火の原因となります。
- 通信ユニットの受信感度が低下するため、シート下等には取り付けしないでください。
- 通信ユニットは、車両金属部分より 30mm 以上離して取り付けてください。
- 植込み型医療機器等に影響をおよぼす恐れがありますので、通信ユニットの取り付け位置は運転者や同乗者から 150mm 以上離れた位置に取り付けてください。

- ② 通信ユニット裏面に両面テープを貼り付ける。

⚠ 注意

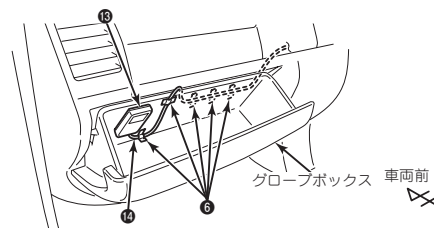
- 両面テープを通信ユニット表面（電波法認証番号等記載のラベル面）には貼り付けしないでください。

- ③ 通信ユニットを取り付け位置に取り付ける

📄 アドバイス

- 通信ユニットに両面テープを貼り付ける際、貼り付け位置表面の汚れ、水分、油分を十分ふき取ってください。
- 通信ユニットのコネクタ部分が車両前方（奥側）になるように取り付けてください。
- 両面テープは、必ず通信ユニットの裏面に貼り付けてください。通信ユニット表面に記載されている認定番号がかくれないようにしてください。
- 通信ユニット取り付け後、容易に外れないことを確認してください。

2 通信ユニット接続コードを配線する（例：グローブボックス）



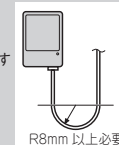
- ① 通信ユニットに接続コードを接続する。
- ② 通信ユニット接続コードをハーネス固定テープで固定しながらメインユニット取付位置まで配線する。

⚠ 警告

- 通信ユニット接続コードは、運転操作の妨げとならないよう、ハーネス固定テープで固定してください。ステアリングやシフトレバーなど車両の可動部に巻き付くと事故の原因となり危険です。

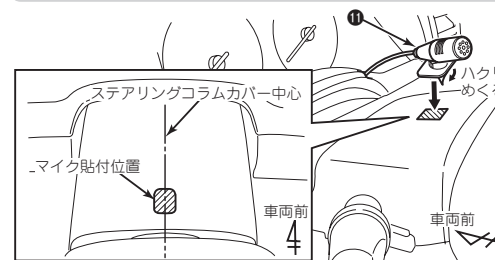
⚠ 注意

- 通信ユニット接続コードを R8mm 以下で曲げると通信に影響をおよぼす場合があります。



● マイクの取り付け(例)

1 ⑪ マイクを取り付ける



- ① ステアリングコラムカバーの中心にマイクの取付位置を決める。

📄 アドバイス

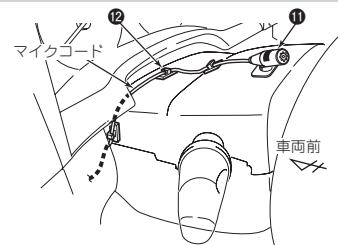
- チルト・テレスコピック時、マイクが車両部品と接触しない位置に貼り付けてください。

- ② マイクをステアリングコラムカバーの中心に取り付ける。

📄 アドバイス

- マイクを取り付ける際、取り付け位置表面の汚れ、水分、油分を十分ふき取ってください。

2 コードを配線する



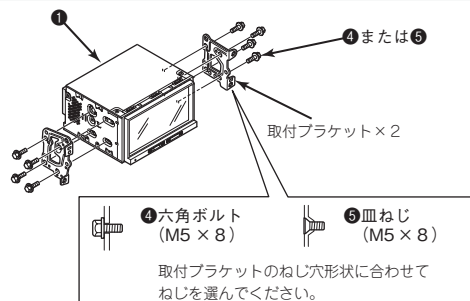
- ① マイクコードをクランパーで固定しながらメインユニット取付位置まで配線する。

⚠ 警告

- マイクコードは、運転操作の妨げとならないよう、クランパーで固定してください。ステアリングやシフトレバーなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。

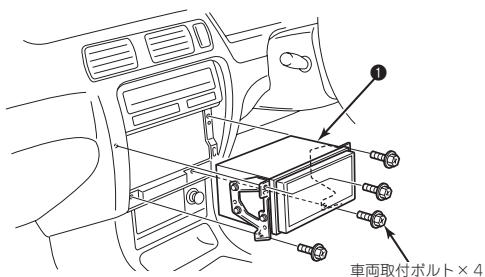
●メインユニットの取り付け

1 ①メインユニットにブラケットを取り付ける



- ① 車両のオーディオ、小物入れなどを取り外す。
- ② オーディオ、小物入れなどを取り付けているブラケットを取り外す。
 - オーディオの取り外し方、取り外すねじの位置や数、使用する取付ブラケットは、車種により異なります。
詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。
- ③ メインユニットにブラケットを取り付ける。

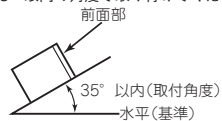
2 ①メインユニットを車両に取り付ける



- ① メインユニットに各コードを接続する。
- ② メインユニットを車両に取り付ける。

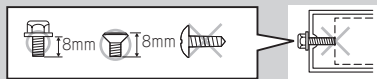
お願い

- センターコンソールの形状によっては、シフトレバーなどに接触する場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 取付角度が大きな取付状態となる場合は、自転車位置ズレやディスクの出し入れ等が正常にできない場合がありますので、できるだけ水平に対して、35°以内の角度で取り付けてください。



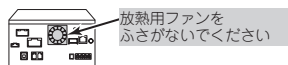
- 必ず付属のねじを使用してください。

取付ねじは、必ず付属のねじ(M5×8)を使用してください。指定のねじ以外を使用すると機器の内部が損傷するおそれがあります。



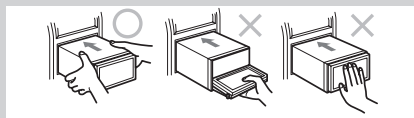
- 放熱用ファンをふさがないでください。

放熱を妨げないようメインユニット取り付けの際は、背面のファンを車両ハース等でふさがないように注意してください。



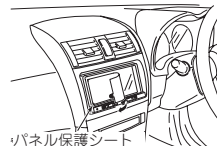
- ディスプレイを手で押さえないでください。

車両に取り付ける際、メインユニットのディスプレイ(表示部)やボタンを強く押さないでください。ディスプレイ(表示部)やボタンが破損する恐れがあります。



- パネル保護シートはメインユニットを車両に取り付けた後、操作する前に取り外してください。

ディスプレイに傷を付ける恐れがあります。



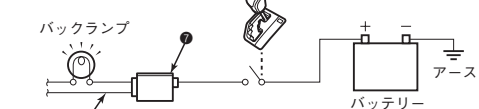
● 接続のしかた

リバース信号端子の接続方法（紫／白色）

車両の後退を検知するために接続します。

車両のバックランプハーネス等（シフトレバーを「R」の位置にしたときに電圧が変化するハーネス）に接続してください。

- シフトレバーを「R」にした時に6V以上の検知電圧値になることをテスターで確認してください。



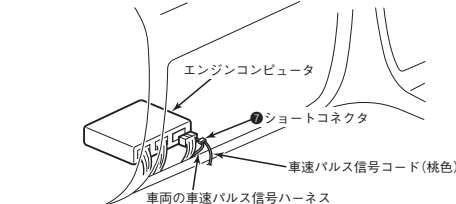
リバース信号コード（紫／白色）

※リバース信号端子を接続しないと車両を後退させた際に自車位置のズレが発生する恐れがあります。

車速パルス接続端子の接続方法（桃色）

車両の走行を検知するために接続します。

車両の車速パルス信号ハーネスに接続してください。



※車速パルス信号を接続しないと測位精度が大幅に低下します。

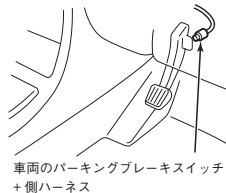
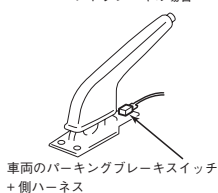
パーキングブレーキ信号端子の接続方法（若草色）

車両の停車状態を検知するために接続します。

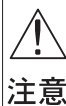
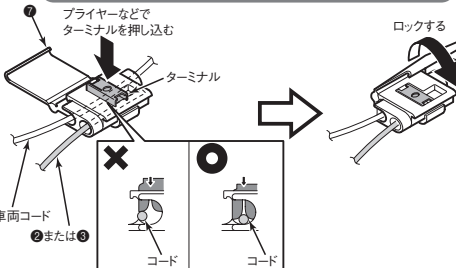
車両のパーキングブレーキスイッチの+側ハーネスに接続してください。

例1)パーキングブレーキが
ハンドブレーキの場合

例2)パーキングブレーキが
フットブレーキの場合



ショートコネクタの使用方法



注意

- ETC ユニットと DSRC ユニットは同時に装着しないでください。誤作動を起こすおそれがあります。
- 車両信号の取り出しには必ず付属のショートコネクタを使用して接続してください。指定外のショートコネクタを使用すると接触不良の原因になります。
- 接続しない端子などは、ビニールテープ等で絶縁処理をしてください。絶縁処理をしないとショートにより火災、感電の原因になります。
- 接続コードを本体に接続する前にアースコードを車両側に必ず接続してください。スピーカ端子や配線がショートしている場合、故障の原因となります。
- スピーカ出力端子と電源／アース端子を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- フィルムアンテナおよびアンテナコードは、本製品に同梱のものを使用してください。同梱品以外のものを使用すると、受信性能が低下する場合があります。
- USB 接続コードは、必ず指定のものを使用してください。

外部機器用接続端子 (18P)

ポータブルオーディオ、映像機器等と組み合わせる際に別売の拡張配線キットと接続

Ei-LAN接続端子 (5P)

別売のETCユニットと接続

⑨GPS アンテナ

①メインユニット

USB接続コード接続端子 (4P)

別売のUSB接続コードと接続

DSRC接続端子 (4P)

別売のDSRCユニット（ETC2.0対応車載器）と接続

バッテリー電源端子 (黄色)

車両のキー位置に関係なく常時電源が加わっているところに接続

ACC電源端子 (赤色)

車両のキー位置をLOCKかOFFにすると電源供給が切れ、ACCにすると電源が加わるところに接続

照明用電源端子 (橙／白色)

車両のライトスイッチをONにしたときに、電源が加わるところに接続

●レオスタット (照度調整スイッチ) 装着車の場合

照度調整により照明用電源の電圧が変動する場所にメインユニットの照明用電源を接続しないでください。接続するとライトのON／OFFにより「昼間表示」と「夜間表示」に切り替わらない場合があります。必ずスモールライトなど照明用電源の電圧が変動しない場所に接続してください。

コントロール電源端子 (青／白色)

外部アンプ等のコントロール電源端子と接続
※外部アンプ等をこの端子に接続した場合でも、オーディオOFF状態でナビの音声案内は可能です。

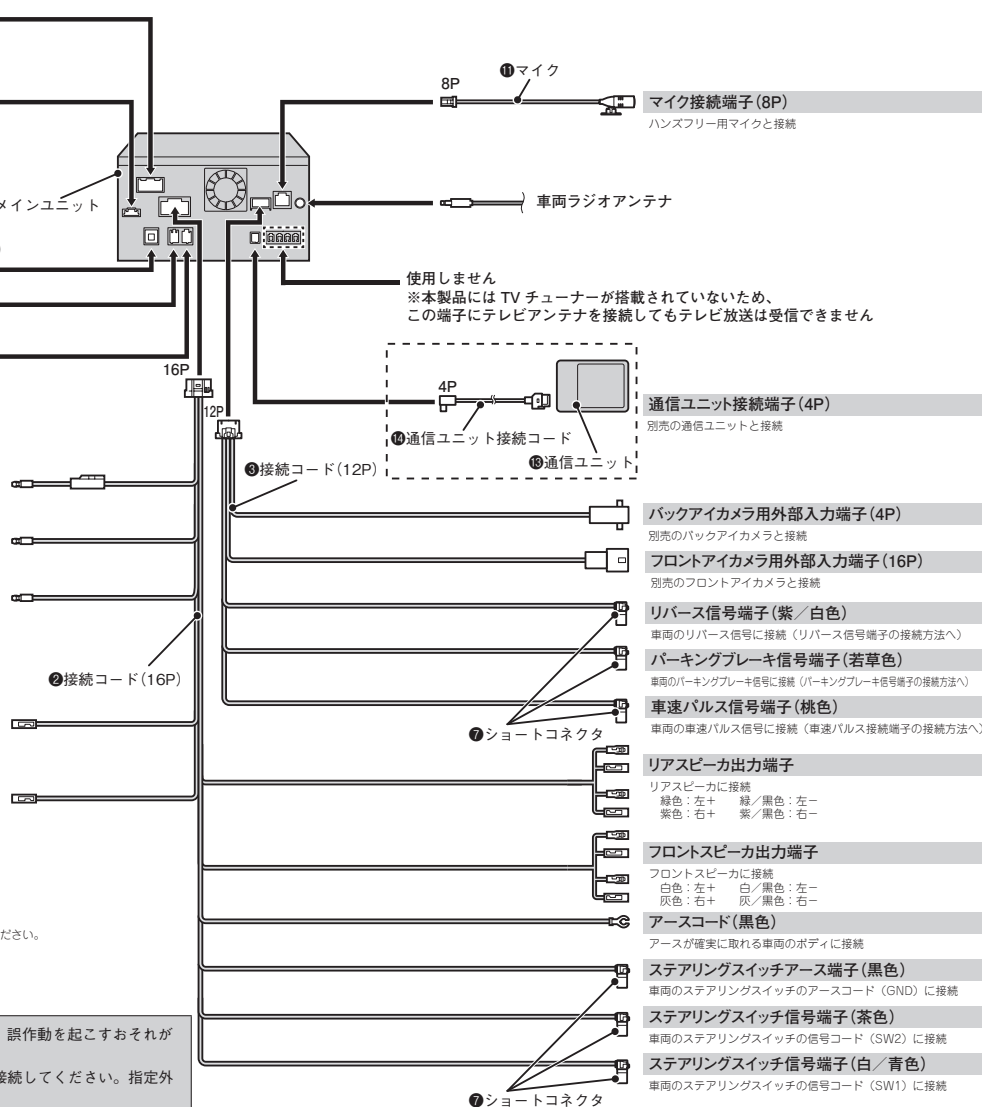
オートアンテナ用電源端子 (青色)

<ラジオアンテナ>

- ガラスアンテナの場合：車側のアンテナアンプ電源端子に接続
- オートアンテナの場合：車側のオートアンテナのコントロール端子に接続
- ショートボールアンテナでアンテナアンプ装着車の場合（ルーフアンテナ、マイクローアンテナなど）：車側のアンテナアンプ電源端子に接続

●オートアンテナ車の場合

本機は緊急放送受信機能（※1）を持っているためラジオ以外のソースを使用している場合でもアンテナは下がりません。アンテナを下げる場合は、ACC OFFにするか、もしくは本体の「ラジオアンテナの設定」画面から操作をしてください。（ACC ON／OFFと連動しているためオーディオ OFF でもアンテナは下がりますが）（詳しくは、取扱説明書を参照してください。）
※1：F1多重放送の緊急放送を受信したとき、自動的に緊急情報に番組が切り替わる機能です。



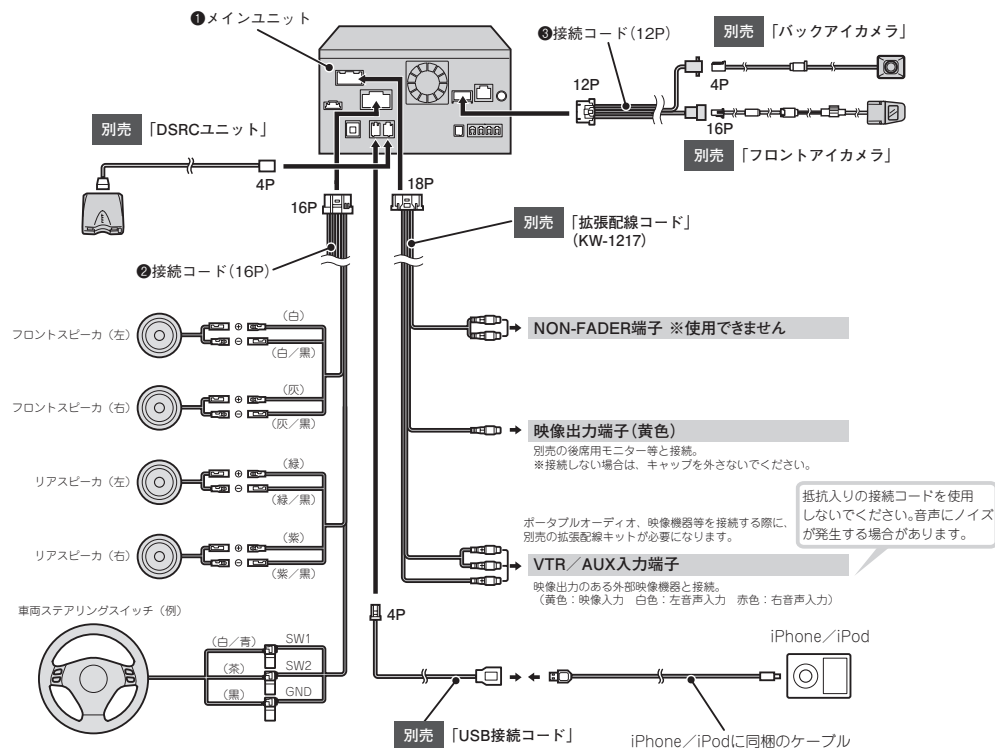
📖 アドバイス

- 車両電源ハーネスとの接続には別売の車種別変換コードが必要です。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。接続可能な外部機器、およびコードについては、イクリプスwebサイト内の「お客様サポート」 (<https://www.denso-ten.com/jp/eclipse/support/>) をご確認ください。
- 車両信号の取り出し位置は、車種やグレードにより異なります。詳しくは、お買い上げの販売店または自動車ディーラーにお問い合わせください。
- ステアリングスイッチの接続先および適合情報については、イクリプスのWebサイト内「お客様サポート」 (<https://www.denso-ten.com/jp/eclipse/support/>) をご確認ください。

システム接続例

接続する機器の取付説明書を確認して取り付けおよび配線を行ってからメインユニットに接続してください。

●車両電源ハーネスとの接続には別売の車種別変換コードが必要です。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。接続可能な外部機器、およびコードについては、イクリプスホームページの「お客様サポート」(<https://www.denso-ten.com/jp/eclipse/support/>)をご確認ください。

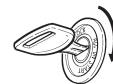


注意

- 別売の拡張配線キットの映像出力端子を使用して著作権保護された番組をビデオデッキなどで録画する際、著作権保護のための機能が働き、正しく録画できません。また、この機能により、再生目的でもビデオデッキを介してモニター出力した場合には画質劣化する場合がありますが、機器の問題ではありません。
- 著作権保護された番組を視聴する場合は本製品とモニターを直接接続してください。

取り付け後の設定／作動確認

1 車両のエンジンをかけ、ナビゲーションを起動する



- ナビゲーションが起動するまで、ACC OFFやメインユニットの操作はしないでください。
- シフトポジションや周囲の安全を確かめてから車両のエンジンをかけてください。

2 初期設定をする

お願い

- 本体や周辺機器の取扱説明書を参照し、初期設定を行ってください。

3 見通しの良い場所で各信号の接続状態を確認する

- ① パーキングブレーキがかかっている事を確認してから、本体前面 **MENU** ボタンを押す。
- ② **情報** をタッチする。
- ③ **SYSTEM CHECK** をタッチし、それぞれの接続状態を確認する。

お願い

- GPS受信感度
しばらく経ってもGPS受信感度の表示が変わらないときは、GPSアンテナの接続状態を確認してください。
- 車速パルス
SYSTEM CHECK画面で走行すると車速パルス信号の状態を確認することができます。走行中、表示が「ON」にならないときは、車速パルス信号の接続状態を確認してください。
- パーキング信号
パーキングブレーキがかかっている場合、表示が「ON」に、パーキングブレーキがかかっていない場合、表示が「OFF」に変わります。表示が変わらないときは、パーキングブレーキ信号の接続状態を確認してください。
- リバース信号
バックギヤ以外にシフトしている場合、表示が「OFF」に、バックギヤにシフトしている場合、表示が「ON」に変わります。表示が変わらないときは、リバース信号の接続状態を確認してください。

商標について

Made for
iPhone | iPod

- "Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod or iPhone may effect wireless performance.
- iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
- Lightning is trademark of Apple Inc. The trademark "iPhone" is used with a license from Aliphone K.K.
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、株式会社デンソーテン はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。
- 記載されている会社名・商品名等は、各社の商標および登録商標です。

